



令和7年6月4日

報道関係者各位

国立大学法人北海道国立大学機構  
帯広畜産大学

**パンデミック期の博物館のソーシャルメディア戦略の変化を解明  
～欧州リトアニアを事例に 15,957 件の投稿を分析～**

**【リリース概要】**

帯広畜産大学人間科学研究部門の木村文准教授は、COVID-19 パンデミック期間中の博物館のソーシャルメディア利用を分析した研究成果を発表しました。

2019年1月から2021年12月までリトアニアの国立博物館19館のFacebook ページから15,957件の投稿を調査し、パンデミック下での博物館のデジタル戦略の変化を明らかにしました。分析の結果、博物館のソーシャルメディア活動はパンデミック前後を比較すると9月に統計的に有意な増加を示し、季節的な変動パターンが確認されました。しかし、ソーシャルメディアの特徴である双方向のコミュニケーションではなく、主に一方向的な情報発信にとどまっていることも判明しました。

**【解説】**

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、博物館は物理的な来館者受け入れを停止し、デジタル活動への転換を余儀なくされました。本研究は3年間という中長期的視点で博物館のデジタル戦略の変化を実証的に分析した初めての包括的研究です。

研究では、リトアニアの国立博物館19館を対象とし、2019年1月から2021年12月まで3年間のFacebook 投稿15,957件を手動で収集・記録しました。統計分析の結果、博物館のソーシャルメディア投稿数は季節的な変動を示し、パンデミックの影響を分析するため同じ月の年次比較を行ったところ、統計的に有意な増加が確認されたのは9月のみでした。

質的分析では、投稿内容を「来館の誘引」「活動の広報」「来館者との交流」「告知」「声明」の5つのカテゴリーに分類しました。全期間を通じて「来館の誘引」が最も多く、博物館の主要目的が来館者誘致にあることが確認されました。しかし、双方向コミュニケーションが期待されていたソーシャルメディアにおいて、実際の投稿の大部分は博物館から公衆に向けた一方向的な情報発信でした。

### 【研究の意義】

本研究は、危機的状況における博物館のオンライン活動への適応・転換に関する具体的なデータを基にした分析を行うことにより、博物館学に最新の社会情勢に基づく知見をもたらすものです。博物館における専門職員がデジタル変革を進める上での実用的な知見を提供するとともに、文化機関が社会情勢にどのように対応するかについての理解を深めることに貢献しています。また、世界中の博物館の大多数が休館を余儀なくされたという、博物館史における重要な出来事を記録するものです。これは、博物館の将来起こりうる危機への対応として、重要な知見となります。さらに、手動データ収集という手法は、自動化によるデータ収集を禁止するソーシャルメディアのプラットフォームの制限を克服し、類似研究のための再現可能な枠組みを提供しています。

### 【発表雑誌】

Muzeológia a kultúrne dedičstvo (Museum Studies and Cultural Heritage): Volume 13, Issue 2 (Published: 2025)

論文 DOI: 10.46284/mkd.2025.13.2.2

論文 URL: [https://www.muzeologia.sk/anot\\_2\\_25\\_en.htm](https://www.muzeologia.sk/anot_2_25_en.htm)

(本論文は上記の出版社のホームページで全文公開されています。)

### 【論文名】

Social Media Boost During the Pandemic: A Statistical Approach to the Case of Lithuanian Museums

### 【著者】

木村 文 帯広畜産大学 人間科学研究部門 准教授

### 【特記事項】

本研究は、日本学術振興会科研費基盤研究(若手) 23K12317 の助成を受けて実施されました。

### 【連絡先】

帯広畜産大学 人間科学研究部門 准教授

木村 文

TEL: 0155-49-5603

E-mail: [akimura@obihiro.ac.jp](mailto:akimura@obihiro.ac.jp)